



血液透析の新しいコンセプト

電解水透析[®] Electrolyzed Water(H₂)-HD System 個人用透析用水作製装置

EW-SP31-HD



POINT 1

造水能力をさらに向上

固体高分子膜電解槽を電気分解方式として採用し、透析用水の造水能力を0.85L/minまで向上しています。

POINT 2

熱水消毒範囲を拡大

RO装置から透析装置までの供給ライン5mまでカバー。熱水消毒の範囲を従来機に比べて拡大しています。

POINT 3

新たな機能を搭載

漏水センサーおよび遮断弁や大型キャスター、信号灯(オプション)など、要望の多かった各種機能を搭載し、機能性を向上しています。



東北大学とのジョイントベンチャー
株式会社トリムメディカルインスティテュート
(株式会社日本トリムグループ)

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-2-22
ハービスENTオフィスタワー 22F

TEL.06-6455-3909



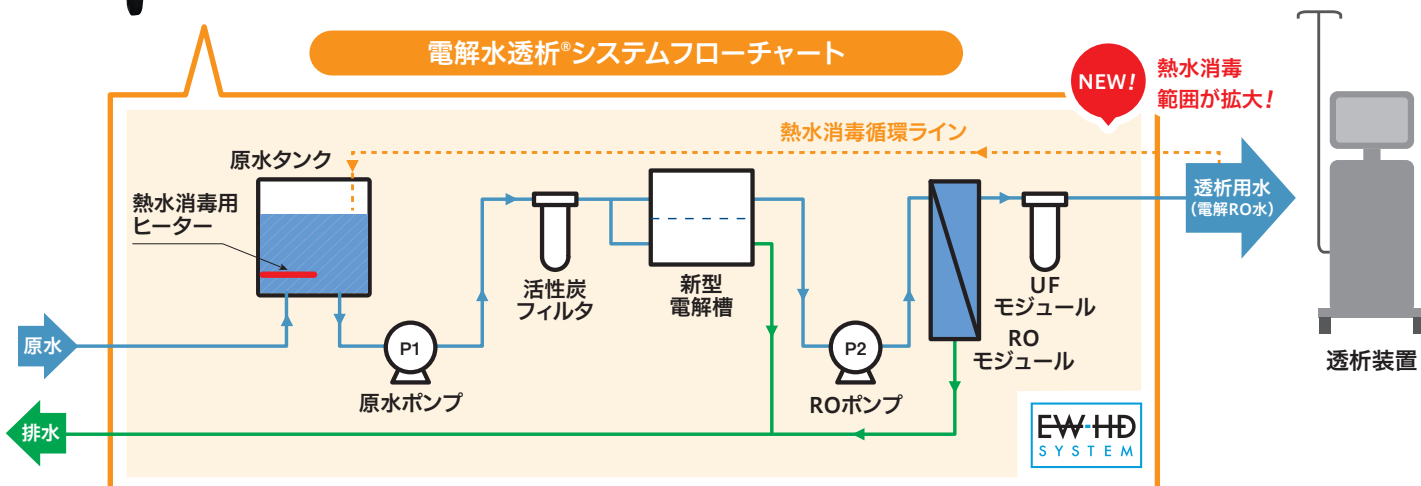
電解水透析[®] 個人用透析用水作製装置

Electrolyzed Water(H₂)-HD System

EW-SP31-HD

新型電解槽により、設置環境による影響をうけることなく、中性の溶存水素水の生成を実現。

電解水透析[®]は、血液透析において大量に使用される「水」の性質に着目した新しいシステムです。現在、抗酸化能を持つと注目され、かつ精力的に研究されている「水素(H₂)」。私たちは1995年から電気分解により生成される、分子状水素(H₂)を含有する電解RO水を生成するシステム(国内外特許取得)の研究開発を行い、「より良い透析」を求め新しいコンセプトの個人用透析用水作製装置を開発しました。



電解RO水 (RO処理後の電解透析水) と電解水透析液

電解RO水の水質

ISO13959が規定する透析用水の基準を満たしていることを確認しています。

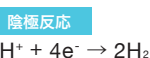
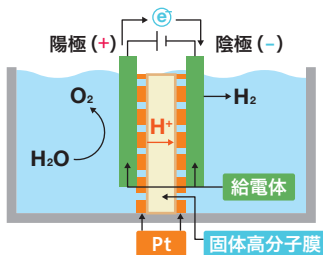
電解水透析液と通常透析液の比較

電解質濃度、ブドウ糖濃度、pHにおいて両者に差はなく、溶存水素濃度に違いがあることを確認しています。

電解水透析システムの特徴

電気分解方式

固体高分子膜電解槽で水の電気分解を行うことにより、pHは同等で、水素(H₂)を原水中に溶解することができます。



装置サイズ & 仕様・諸元

項目	仕様・諸元			
型式	EW-SP31-HD			
最大消費電力(熱水)	約1.2kW			
造水時消費電力	約0.5kW			
外形サイズ	(W) 490mm x (D) 580mm x (H) 1160mm			
電解RO水製造能力	0.85L/min			
原水条件	水圧	0.1 ~ 0.3MPa	全硬度	50mg/L以下
	水量	2.4L/min以上	シリカ	20mg/L以下
	水温	10°C以上		
実回収率	45% (RO膜回収率50% 電解槽回収率90%)			
電解モジュール	固体高分子膜型電解槽 1個			
RO膜モジュール	合成複合膜 2本			
配管接続部	・原水入口径	Rc1/2	・透過水戻り入り口	Rc1/4
	・透過水出口径	Rc1/4	・排水出口径	Rc3/4
清浄度維持機能	・熱水消毒(78°C 30分以上 全行程約3.5時間)			
	・薬液消毒には非対応			
消毒範囲	原水タンク～機外5m程度先まで(ループ配管)			

